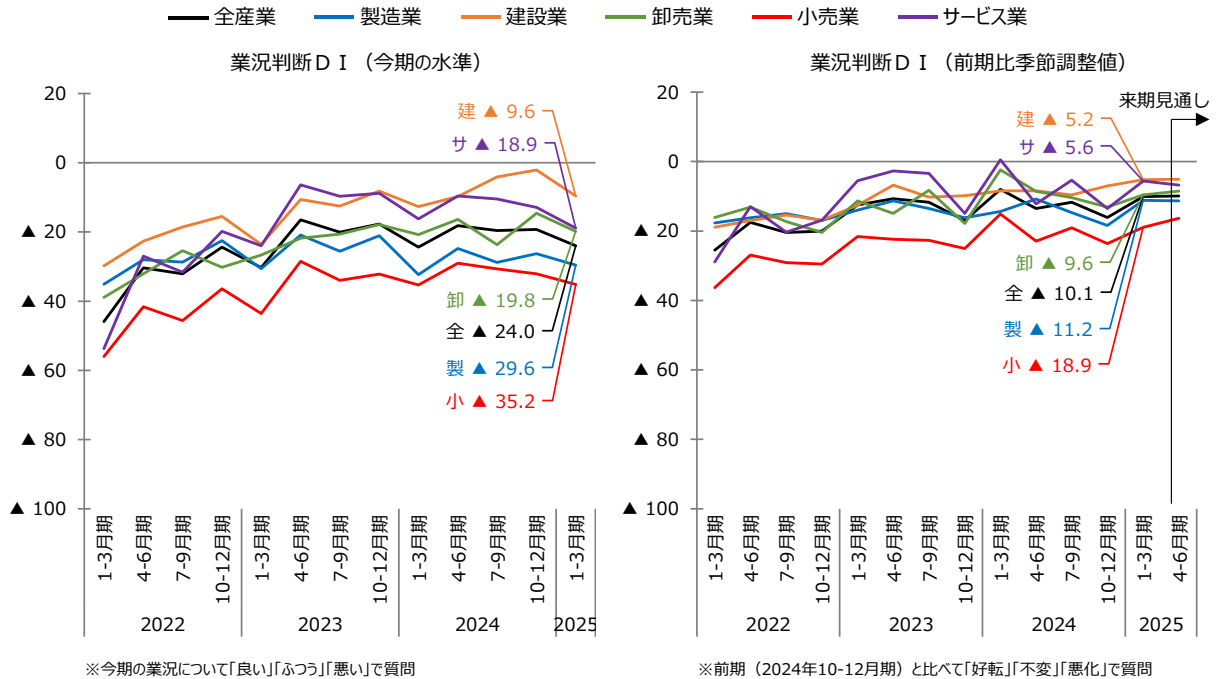


第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 関東



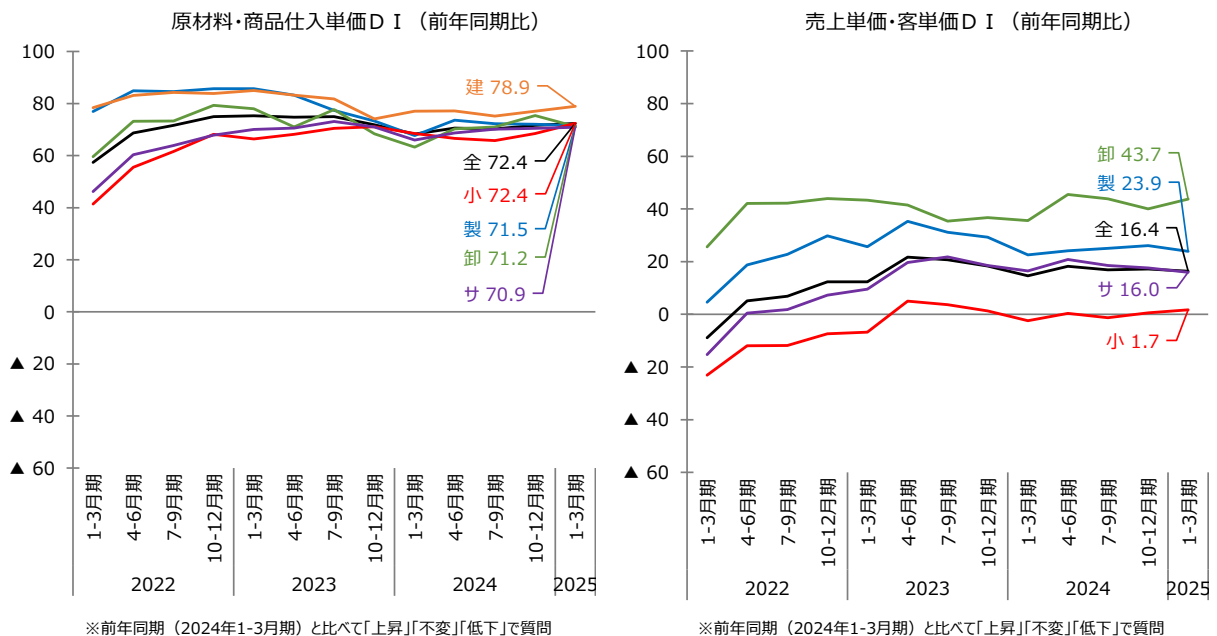
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より4.7ポイント減の▲24.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の72.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の16.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、関東：4,845企業

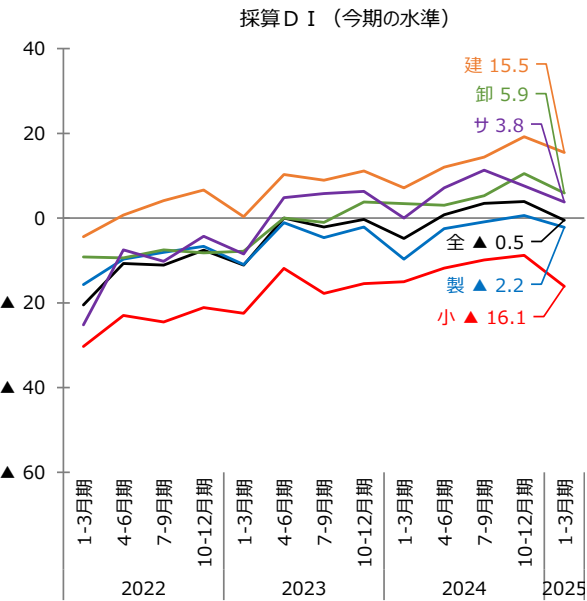
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 関東



3. 採算

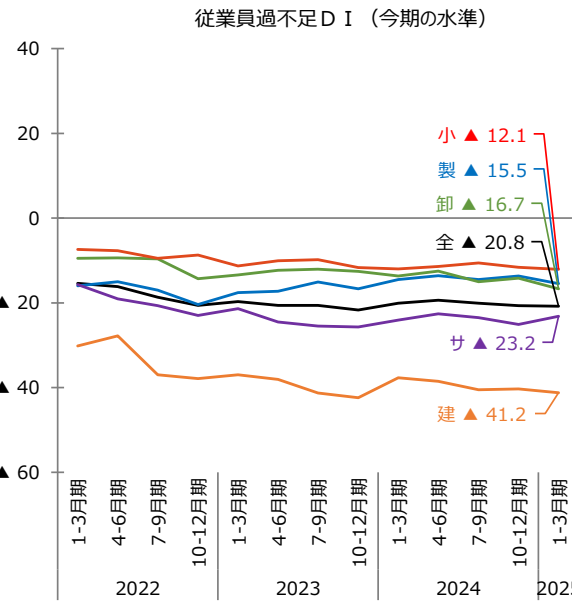
採算DIは、全産業で前期より4.4ポイント減の▲0.5と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲20.8と3期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、建設業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	仕事の引き合いは多くなっている。しかし受注単価金額は安定しない。また、職人や技術者の人手不足は恒常的。仕事の確保、人の確保を常に考えて工夫している。	製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く）
	受注工事は増えても人手不足が問題。人手不足により受注したくてもできない工事もある。また、天候に大きく左右されるので、今年の大雪がかなりの痛手を負っている。	建設業 一般土木建築工事業
	野菜の高騰に歯止めが掛からない。仕入値が上昇しているが、価格転嫁はできている。	卸売業 野菜卸売業
	教科書のデジタル化が進み、消費者ニーズは多様化している。それに伴い、電子辞書など既存のコンテンツの見直しを模索している。人件費や仕入れの高騰化に対応しながら、新しい販売モデルを考えている。	小売業 書籍・雑誌小売業（古本を除く）
	日本人予約は変わらず週末だがインバウンドが好調なため売り上げはコロナ禍前を上回る。ただ事前決済やキャッシュレスが多いためキャッシュフローが偏り、併せて食材費高騰など利益ベースはギリギリ。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	売上はコロナ前の売上に戻りつつあり、資金繰りも昨年度よりも楽になったが、毎年の賃金の引き上げと経費の上昇が売上に対しどのくらいの影響を及ぼすのが心配であり、今後の加工単価の見直しに期待したい。	製造業 その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
	従業員不足で仕事が捗らないため受注や引合いは活発になってきたが、受注可能規模が限られ断るケースや、未消化工事が出ている。土木業界への就職率の低さや高齢化、賃金、キャリアアップの見通しが問題である。	建設業 土工・コンクリート工事業
	主要輸出先であるベトナムの中古品輸入規制強化により、国内の顧客も取引に慎重になっている。今後が見通せず、さらに米国が中国からの迂回輸入を警戒して関税を引き上げる可能性があり、来期の業況は悪化の見通し。	卸売業 その他の産業機械器具卸売業
	米不足と価格の異常な上昇で、大口納入先への対応が出来ず、納入辞退となり、売上面で大きな痛手となった。大雪で燃料油の販売は伸びたが、地域の需要減を補えるレベルにまでは届かない。厳しい状況が続くのでは。	小売業 ガソリンスタンド
	ガソリン代や灯油代など燃料費が上昇しているので大変。他にも米や野菜も高くなっているので仕入れも大変になっている。また、鳥インフルエンザの影響もあり入荷量も減ってきているので今後もしばらく続きそうである。	サービス業 配達飲食サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。